

# はじめに

- 歯周治療は、X線や歯周検査より、歯周疾患の状態を正しく判断し治療計画を立てることが重要である。
- 私たち歯科衛生士が初期治療を進めるにあたり、患者さんの来院の継続が歯周治療の意味・効果を生む。
- 歯周治療を継続して行う必須条件の1つとして、患者さんとの「コミュニケーション」を図り、「モチベーションの向上」が私たち歯科衛生士の大事な役目である。
- 本症例は歯周治療を始める前に、しっかり時間をとり患者さんに歯周疾患の説明・治療計画の相談をした事によって、モチベーションを上げることが出来た。
- また、上がっているモチベーションが下がらないようにする為に歯周治療の来院間隔と治療期間を短くして、モチベーションを維持しながら短期間で、歯肉の改善を得ることが出来た症例です。

# 症 例

患者：37歳男性

主訴：歯肉からの出血と痛み

現病歴：重度の歯肉炎。

概往歴：高血圧症（降圧剤服用） ・ 喫煙 ・ 口呼吸



	3			3			3		2			2			2			2			2			2			3			3													
4	7	4	4	6	4	4	5	3	3	4	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	4	3	3	5	3	3	6	4	4	7	5			
	3			2			2			2			2			2			2			2			2			2			2			2			2			3			
	3			3			2			2			2			2			2			2			2			2			2			2			2			2			
5	7	4	4	6	3	3	5	3	2	4	2	3	3	3	3	2	3	2	1	2	2	1	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	4	3	4	5	4	3	6	4	4	7	3
	3			2			1			2			2			2			2			2			2			2			2			2			2			2			

全顎BOP(+)

# 初診時 口腔内写真



# 原因の特定と治療方針

仕事が多忙な為ブラッシングを怠った。  
結果痛み・出血を伴い怖くてブラッシングが出来ず、悪化。



PCR不良による歯肉炎,軽度歯周炎



ブラッシングの重要性を認識させ、モチベーションを向上させる

## 治療の流れ

- 1 薬液でのブラッシングを行い、歯肉の腫脹・出血のコントロール
- 2 TBIを徹底的に行い、モチベーションを上げる
- 3 痛みが引いてきたらスケーリングを行い更なる改善
- 4 再評価
- 5 必要に応じてSRP
- 6 再評価

## 初診時（来院1回目）



軟毛ブラシをあてるだけで出血。  
痛みも強い。

軟毛ブラシを用いてグルコン酸クロルヘキシジンでブラッシングとTBIを行った。

## 初診から5日目（来院2回目）



5日目にして出血は半分ほどの量になっていた。プラークの量も半分ほどになっていた。

再度グルコン酸クロルヘキシジンでのブラッシングとTBIのみ。

爽快感を感じてもらおう。

## 初診から8日目（来院3回目）



8日目にして出血・痛みがある状態。

プラークもまだ目立つ状態で、この日もグルコン酸クロルヘキシジンでのブラッシングとTBIにみ。

磨けた事による爽快感を実感してもらう事を第一に考えた。

TBI後に時間を頂き、ブラッシングの必要性を話した。

## 初診から20日目（来院4回目）



### 指導内容

- ・ 歯頸部の染まりが目立つので、バス法にて指導
- ・ 歯頸部にブラシの毛先を当ててから磨く  
ブラッシングのストローク幅が大きくなるのを指摘
- ・ 出血する事は現時点では仕方ないので気にしないで磨く
- ・ モチベーションが復活していた

## 初診から30日目（来院5回目） 全顎スケーリング



### 指導内容

- PCRが半分になったのでSC開始
- 前歯部の立て磨き指導
- 下顎前歯部は叢生があるので、ブラシの角度を変えながら1歯ずつ磨くように指導
- ブラッシングのストロークもよくなっている
- 確実にモチベーションを感じられる

## 初診から37日目（来院6回目）



### 指導内容

- PCRがまた半分に下がった
- 自身で爽快感を感じると言われた
- 歯頸部に残る部分は、ブラシを当てる時間を長くするよう指導
- 歯肉が引き締まってきたことで、歯石が見えてきた
- 叢生のリスク部位はPMTTCとの併用で状態管理を説明

PCR66%→31%→18%



2	2	2	1	1	2	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	2	2	2	2	3	2	2	4	3	2	5	2	2	6	3	3	7	3					
3	7	3	3	6	3	3	5	2	2	4	2	2	3	2	2	2	2	1	2	1	1	2	2	2	2	2	2	3	2	2	4	3	2	5	2	2	6	3	3	7	3	
3				2			2			2			2				2			2				2			2			2			2			2			2		2	
3	3			3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
5	7	3	3	6	3	2	5	2	2	4	2	2	3	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	4	2	2	5	2	2	6	2	2	7	4	
3				2			1			2			2					1			2				2			2			2			2			2			2		2

状態はかなり良くなったが、喫煙、降圧剤服用、親知らずの影響があるのでそのリスクを説明・理解

親知らずの抜歯はしない事になったので、ポケットの深い下顎左右7番は次回よりSRPへ



# 1ヶ月後の比較



初診時

ピ-リグ 終了時

歯頸部のラインにベッタリ付着していたプラークがなくなり、歯面にも光沢が出てきた。

歯肉が改善し綺麗になっていった事で、EPA-スコアが更に上がり、来院時に患者さんの方から「歯肉の黒い部分が笑うと見えるので気になる」とお話があった。

原因とする中で、「喫煙」「口呼吸」が考えられる事を説明

表層のメラニン色素の層を剥がし歯肉再生を説明し、理解された上治療を希望されたので、SRPの予定を変更し3回にわたりピ-リグを行った。

今後の治療計画は、SRPを行い再評価後は、リコール間隔を最初は1ヶ月にして、状態がよければ3ヶ月ごとのPMTCで状態を保てるように管理していく

# まとめ

- Eチバ-ションが向上し、約1ヶ月で歯肉の改善を得ることが出来た。
- その要因としては日に日に痛み・出血・発赤が減ってきている事を実感でき、自分のブラッシングがいかに重要であることを認識した事にある。
- また、1週間に2回来院してもらい、患者さんのEチバ-ションが下がらないよう、距離が近くなる様に熱意を持って指導した。
- Eチバ-ションだけに集中せず、コミュニケーションを図る為会話にも心がけ、リラックス感にも注意した
- 患者さんの協力・Eチバ-ションの向上があっからこそ歯周治療は成功する
- Eチバ-ションが向上した事、患者さんとの信頼関係が築けたことで、ピーリング治療まで移行することが出来た。
- 患者さんがかかえる不安・不満・負担を、しっかり把握し受け止め責任を持って、治療を担当する重要さをこの症例より学んだ。